

Press Release

令和元年7月17日

報道機関 各位

東北大学大学院工学研究科インフラ・マネジメント研究センター

「メンテナンス・レジリエンス TOKYO2019」への 出展のお知らせ

この度、東北大学大学院工学研究科インフラ・マネジメント研究センターは、「メンテナンス・レジリエンスTOKYO2019」^{※1}にて、各自治体・企業との取り組み、当センターから派生したベンチャー企業の紹介や、東北大学が主幹機関として活動している文部科学省次世代アントレプレナー育成事業EDGE-NEXT^{※2}”EARTH on EDGE”の取り組みを紹介する展示を行います。

つきましては、ご多用中とは存じますが、当日は取材を賜り、紙面、番組等でご紹介頂けますようお願い申し上げます。

なお、ご取材にあたっては事前の申し込みは必要ございませんので直接会場へお越しください。

記

1. 日 時：令和元年 7月 24日（水）10:00～17:00
7月 25日（木）10:00～17:00
7月 26日（金）10:00～17:00
2. 開催場所：東京ビッグサイト
3. 催事名：メンテナンス・レジリエンスTOKYO2019
4. 出展ブース：W1 P-2 3

※1 メンテナンス・レジリエンスTOKYO2019：生産設備から社会インフラ、各種災害まで「メンテナンス」「レジリエンス」に関する最新の製品・技術・サービスの情報交流を図るイベント

※2 EDGE-NEXT：東北・北海道からの起業復興を目的とした、6 大学（北海道・小樽・宮城・京都・神戸・東北大）連携のコンソーシアム

5. 主な出展内容：※概要は別紙資料を参照

資料①東北大学大学院工学研究科インフラ・マネジメント研究センター取組み紹介
(東北大学大学院工学研究科インフラ・マネジメント研究センター)

資料②自治体支援・人材育成の取組み

(東北大学大学院工学研究科インフラ・マネジメント研究センター、
東日本高速道路株式会社東北支社、株式会社ネクスコ・エンジニアリング
東北)

資料③宮城県建設センターとの取組み

(公益社団法人宮城県建設センター、
東北大学大学院工学研究科インフラ・マネジメント研究センター)

資料④産学官連携で構築する自治体用インフラ統合管理システム

(公益社団法人宮城県建設センター、
東北大学大学院工学研究科インフラ・マネジメント研究センター)

資料⑤人材育成の取組み

(東北建設業協会連合会、
東北大学大学院工学研究科インフラ・マネジメント研究センター)

資料⑥文部科学省次世代アントレプレナー育成事業（EDGE-NEXT）の東北大学
コンソーシアムの取組み

(東北大学EDGE-NEXT企画推進室・事務局)

【問い合わせ先】

東北大学大学院工学研究科インフラ・マネジメント研究センター

担当 鎌田、三浦

電話 022-721-5503

E-mail: inquiry-imc@grp.tohoku.ac.jp

⑤については、

東北大学 EDGE-NEXT 企画推進室・事務局

担当 加藤、武田、田中

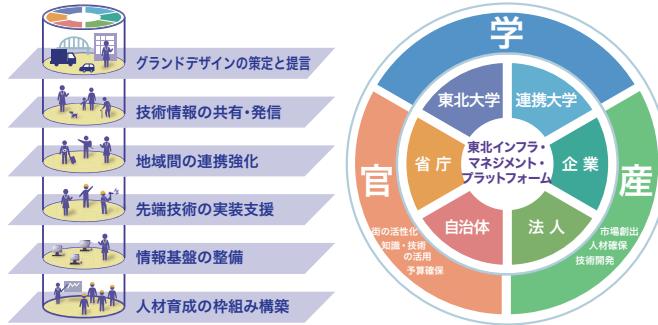
電話 022-795-5658

E-mail: eng-edge@grp.tohoku.ac.jp

インフラ・マネジメント研究センター 取組み紹介

1 東北インフラ・マネジメント・プラットフォームの構築と展開

- ◆ 東北地方における産学官をネットワーク化
- ◆ 各組織がもつ知識・ニーズ・場・人材を集結させたゲートウェイ



2 情報基盤の整備、社会実装

産学官連携による橋梁メンテナンス統合データベースシステム

自治体支援データベースシステムの導入

橋梁点検データを一元管理! 時短で経済的な点検に!

点検・診断の高度化・効率化・補修計画・予算管理の適正化を実現



東日本高速道路株式会社のデータベース(DB)システム(SIPの成果)を元に、自治体向けのDBシステムを構築し、導入支援を行いました。

山形県、公益財団法人山形県建設技術センター

導入のメリット

1橋分の橋梁診断書(カルテ)作成時間

手作業 ※資料を探しながら入力

統合データベースシステム



約3時間



約3分

活用実績・予定等

1 2016年度: 山形県でサービス開始

2017年度: 山形県内全35市町村が「山形県道路橋梁メンテナンス統合データベースシステム(DBMY)」を導入



2 2017年度: 宮城県内34市町村に展開

宮城県の市町村様式にカスタマイズ

自治体向け インフラDB 成果を提供 開拓への協力 東北大 IMC 宮城県※建設センター

3 2018年度: 宮城県と仙台市に導入

その他、導入を検討される自治体が増加中!

「自治体向けインフラDB」を活用させていただき、山形県版にカスタマイズしています。これにより、県と市町村が保有していた様式等を大幅に変更せず、高性能で使いやすいデータベースシステムを短期間、かつ経済的に開発することができました。

連携状況

18機関と協定締結



・国土交通省 東北地方整備局



・山形県 県土整備部



・上山市



・宮城県 土木部



・仙台市 建設局



・岩沼市



・名取市



・東日本高速道路株式会社 東北支社



・株式会社ネクスコ・エンジニアリング東北

・(一社)東北地域づくり協会

・(公財)山形県建設技術センター

・(公社)宮城県建設センター

・(一社)建設コンサルタント協会東北支部 (106社)

・(一社)東北測量設計協会 (63社)

・東北建設業協会連合会 (1,778社)

・(一社)日本建設業連合会東北支部 (63社)

・(一社)プレストレスト・コンクリート建設業協会 東北支部 (16社)

・(一社)日本橋梁建設協会 (63社)



・八戸工業大学

・秋田大学

・日本大学

※2019年4月時点 ※()内は会員数

3 人材育成の枠組み構築

市町村勉強会

◆ 自治体職員を対象とした勉強会を実施

◆ 現場レベルのニーズや課題の吸い上げ、有識者からのアドバイス等を実施



ながれ

現状改善に意欲的な自治体

第1回 インフラ維持管理勉強会

第2回 インフラ維持管理勉強会

モデル自治体の選定・試行

第3回 インフラ維持管理勉強会

モデルケースの横展開

第一回: 2017年12月
課題、ニーズの聞き出し



第二回: 2018年5月
ニーズとシーズのマッチング



第三回: 2018年10月
シーズの試行



参加者(第1~3回)

青森県 三戸町 宮城県 仙台市
青森県 南部町 宮城県 登米市
秋田県 大仙市 宮城県 岩沼市
岩手県 矢巾町 神奈川県 小田原市
山形県 島根県
山形県 上山市 島根県 奥出雲町
山形県 南陽市 NEXCO 東日本
・NEXCO・エンジニアリング東北

※順不同

東日本高速道路(株) 東北支社

有識者からのアドバイス

4 受賞

第1回 日本オープンイノベーション大賞

国土交通大臣賞 受賞



JAPAN OPEN
INNOVATION PRIZE



授賞式: 2019年3月5日 虎ノ門ヒルズ

2019年2月5日に発表された、第1回日本オープンイノベーション大賞において、久田真(代表者: 東北大大学教授(工学研究科インフラ・マネジメント研究センター長))、金井浩(東北大大学教授)、長坂徹也(東北大大学教授(工学研究科長))、皆川浩(東北大大学准教授)、鎌田貢(東北大大学准教授(工学研究科インフラ・マネジメント研究センター副センター長))が、**国土交通省大臣賞を受賞しました。**

自治体支援・人材育成の取組み

東北大学大学院工学研究科インフラ・マネジメント研究センター

東日本高速道路株式会社 東北支社

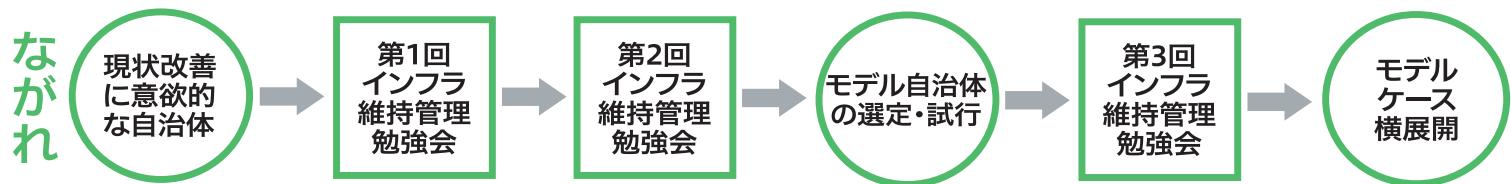
株式会社ネクスコ・エンジニアリング東北

老朽化するインフラの
管理・整備に直面する

自治体管理者

勉強会の目的・意義 人口や予算、管理施設数にその供用年数など自治体によって置かれている条件は実に様々である。

その中で、インフラの維持管理に直面する管理者の苦悩は計り知れない。現場レベルの本当の課題・ニーズを知ることは、限られた予算内で施行しなければならない自治体のインフラ修繕計画や予防保全、長寿命化を技術的に支援するためには不可欠である。



第1回

参加者数:12名
(8自治体)

課題・ニーズ を聞き出す



各ブースにそれぞれの専門家を配し行なったディスカッションは、自治体管理者から課題やニーズをできるだけ多く聞き出すことが目的。
少人数グループにしたことで、率直、且つ、詳細な意見を多数聞くことができた。

第2回

参加者数:18名
(9自治体)

ニーズとシーズ のマッチングを図る



2日目は、自治体管理者に業務上困っている案件を持ち寄ってもらい、有識者に実際に相談するという試みを行なった。

解決を目的とせず、あくまでアドバイスの領域を越えないものとしたが、話を聞いてもらえること、悩みを共有することだけでも管理者たちにとっては貴重な場であり、そこでヒントを得たり、他自治体の参考事例を知ることができたり、有意義な時間であったことが、事後のアンケートからもうかがえた。



H30.7.10 宮城県登米市にて実証

モデル自治体の選定・試行

宮城県登米市における参加機関の役割

東北大大学 IMC	進行・タブレット	・全体進行 ・タブレットでの橋梁点検指導
登米市	被験者	・モデル自治体としてシーズの試行
宮城県建設センター	点検指導	・通常の橋梁点検指導
NEXCO 東日本	アドバイザー	・道路管理者としてのアドバイス
ネクスコ エンジニアリング東北	技術指導	・製品の使用を含めた技術指導 (ふりもみべったん、コロコロeye)

インフラ維持・管理業務の効率化を 実証する

実証の目的・内容

勉強会を通じて、市町村における橋梁維持管理業務の課題が浮き彫りになった。今後は、産学官が連携して、その業務の効率化を図るフェーズに入るべきと考え、モデル自治体のフィールドにて、時間短縮・コスト削減を望めるシーズの試行や、専門家による点検・補修のアドバイスを行なった。

H30.7.24 山形県南陽市にて実証



第3回

参加者数:16名
(10自治体)

1日目 現場実証: 仙台市管理橋梁 (泉区八乙女中央2丁目 かむり大橋)

参加機関: 自治体管理者、東日本高速道路株式会社 東北支社、株式会社ネクスコ・エンジニアリング東北
東北大大学インフラ・マネジメント研究センター

2日目 第1部: 自治体などの取組み紹介
第2部: 意見交換会



シーズの試行 勉強会の成果

1日目には、実際の現場にて時間短縮・コスト削減を望めるシーズの試行を体験。今まで机上ののみの話だったものを、実際に自分の手で試し、その便利さ、手軽さなどを実感した様子が見受けられた。

2日目は、先進自治体などの取組みをはじめ、この勉強会に参加したことによる意識の変化や新たな取組について各参加自治体に発表してもらった。後半の意見交換会では、参加機関ごとにブースを設け、各テーマに沿ったディスカッションが行われた。

今後、自治体の限られた人材・予算を効率的かつ有効的に活用するためのモデル構築を目指し、サポートや実証などを次の段階へ進めていく予定である。

お問い合わせ先

東北大大学院工学研究科インフラ・マネジメント研究センター
TEL : 022-721-5503 E-mail : inquiry-imc@grp.tohoku.ac.jp HP : <http://imc-tohoku.org/>

宮城県建設センターとの取組み

公益社団法人宮城県建設センター
東北大学大学院工学研究科インフラ・マネジメント研究センター

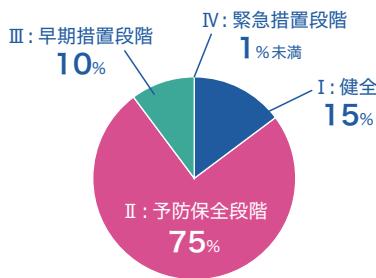
1. 宮城県内の自治体の現状と課題

■ 橋梁に係る現状

- 予防も含め措置が必要な「II～IV」が全体の9割
- 維持管理に関わる財政難に潜む地域格差(税収など)

■ 課題

- 繼続した経過観察と計画的修繕が必要
- 財政難による影響(補修・修繕工事の低迷、技術者不足)



出典：橋梁メンテナンス年報(平成26年～28年)

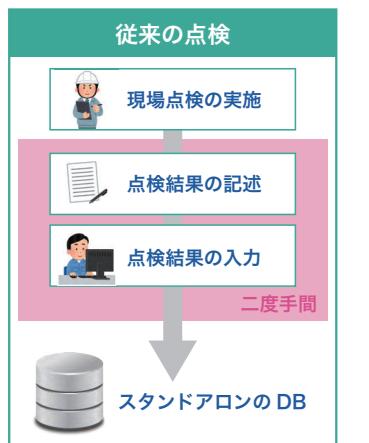
全国平均: 192人/橋

地域名	2009年	2011年	2013年	2015年	2017年
宮城県内	152	148	147	146	144
仙台都市圏	293	291	292	296	296
仙南圏	132	130	128	126	123
大崎圏	119	118	116	115	113
栗原圏	89	87	85	82	79
登米圏	61	60	59	59	58
石巻圏	179	167	163	162	159
気仙沼・本吉圏	204	188	181	172	167

表1. 1橋当たりを支える人数 (IMC調べ) (仙台市を除く) (人口/橋)

出典：人口…宮城県統計課ホームページ 橋梁数…宮城県道路メンテナンス会議資料

2. ① ICT技術の活用



■ タブレット端末機能: 記録写真を参照した撮影が可能



■ 期待される効果

- 点検技術力の補完
- 点検作業の効率化
- 情報共有による技術力の向上

2. ② 橋梁定期点検業務に関するマニュアルの策定



■ 期待される効果

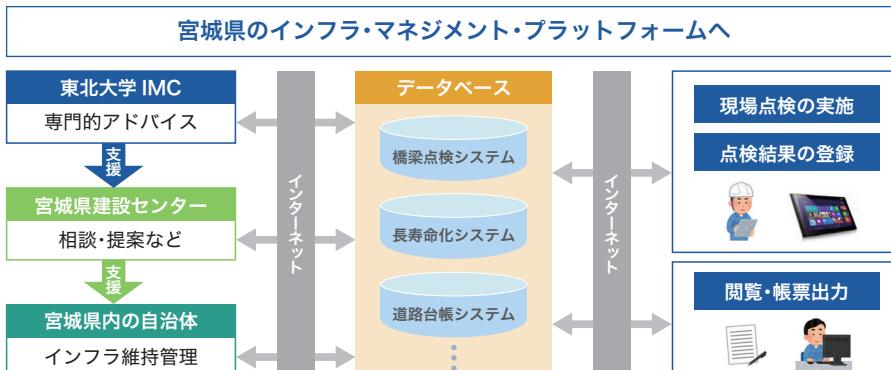
- 時間の短縮
- 品質の安定・向上
- 経費の削減

橋梁点検業務に関するマニュアル(※)	橋梁定期点検 平成26年6月国交省発行 に関する参考資料(※)
適用の範囲	△
定期点検の目的	○ △
定期点検の頻度	○ △
点検計画の目的	○ △
点検の項目及び方法	○ △
直接検査	○ △
間接検査	○ △
機械装置の把握	○ △
検査状況の記録	○ △
検査区分の設定	○ △
健全性の診断	○ △
修理の実施	○ △
第三者委託の指揮	△
機器の各部材の機能	△
チョーキングについて	○ △
計測について	○ △
計測について	○ △
業務の流れ	○ △

平成30年3月 公益社団法人 宮城県建設センター

(※)△: 検査実施に必要な内容のみ

2. ③ 支援体制の整備



産学官が連携し、東北大学インフラ・マネジメント研究センターからの新技術・新情報・専門的アドバイスにより、当センターは、県内の自治体の維持管理に関する相談・提案・各種支援を行う、情報提供の基盤を構築する。

さらに、点検結果など情報共有する基盤を構築し、効率的・効率的な宮城県のインフラ・マネジメント・プラットフォームを形成することで、低コストな社会資本の安全性確保に貢献する。

■ 期待される効果

- 低コストでの社会資本の安全性確保に貢献

産学官連携で構築する自治体用インフラ統合管理システム

公益社団法人宮城県建設センター
東北大学大学院工学研究科インフラ・マネジメントセンター

宮城県建設センターと東北大学の共同研究

① SIP の研究成果を自治体支援に応用

- 道路維持管理情報表現仕様をもとに点検業務向けのデータモデルを実装
- 部材や損傷種別などの点検要領を自治体ごとに切り替える仕掛けへと拡張

② 社会資本を管理するセンター DIM[※]を構築

- 国交省定期点検要領に沿った点検調書の作成
- タブレット端末による現場点検で内業を省力化
- 点検結果をもとに長寿命化計画を自動策定
- 市町村職員が日常業務に利用できる台帳機能

※センター DIM : 自治体用インフラ統合管理システム

本当に必要な補修の優先順位を導き出す長寿命化機能

補修の優先順位を算出

- 橋種や部材、損傷種別ごとの損傷程度に着眼して健全度を指標化
- 耐荷性と走行安全性、橋の重要度から自動的に優先順位を算出
- 指標には現れない要素をヒントとして与え、順序を人の判断で最終決定

長寿命化計画を策定

- グループ全体や個別橋梁のライフサイクルコストを算出、平準化
- 策定した計画を Excel ファイルにレポート出力
- 管理橋梁の構成や特徴をグラフ化

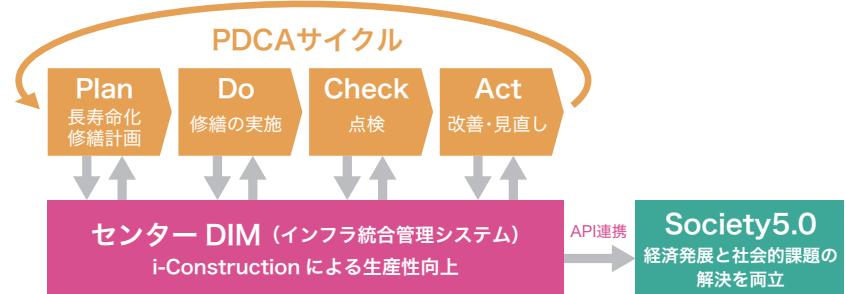
データベースを利活用するサブシステム

- データベースに蓄積したインフラ施設の諸元や点検データなどを利活用するサブシステム群
- インフラ施設の情報や図書を地図やキーワードから検索して、日常業務に活用する台帳管理サブシステム
- システムが利活用できるデータ形式で点検結果を入力・蓄積する橋梁点検サブシステムと現場点検タブレット
- 蓄積したデータを分析してインフラ維持管理の指針を策定する長寿命化サブシステム



ICTによる社会インフラ維持管理業務を実現

- PDCAサイクルの管理資産をデータベースとストレージに安全に蓄積
- 蓄積データを点検や補修、長寿命化などに利活用するツールを提供
- APIによるシステム間連携で、便益のある新たな付加サービスを創出



人材育成の取組み

東北建設業協会連合会
東北大大学院工学研究科インフラ・マネジメント研究センター

2019年度

インフラ維持管理セミナー

背景

高度経済成長期に建設された多くのインフラの老朽化対策が喫緊の社会的課題である。その対策の一つとして始まった道路橋等の点検義務付けから5年が経ち、点検の1巡目が終了した。今後、補修・修繕が本格化すると考えられる。人材や予算が確保しにくい中、効率的なインフラの維持管理のためには、建設業の方々の活躍、協力が不可欠である。

プログラム

	講義名	講師
各回共通	インフラ維持管理・総論	東北大大学院工学研究科インフラ・マネジメント研究センター センター長 久田 真 氏
	市町村管理橋に多い小規模橋梁の特徴と補修工事の留意点 (第1・2・3・5回)	東北大大学院工学研究科インフラ・マネジメント研究センター 学術研究員 橋田 明良 氏 学術研究員 石川 弘子 氏
	橋梁補修概論 (第4・6回)	一般社団法人橋梁調査会 橋梁診断アドバイザー 横野 勝巳 氏
	東北地方におけるコンクリート構造物の劣化の原因とその対策	元国土交通省 東北地方整備局／元南三陸国道事務所 元所長 佐藤 和徳 氏

トピックス講義

	講義名	講師(協力先)
第1回 (2019.4)	東北における道路インフラの保全対策について	三井住友建設株式会社 東北支店
第2回 (2019.6)	橋梁技術の最前線と維持管理の留意点	一般社団法人日本橋梁建設協会
第3回 (2019.8)	CIM (Construction Information Modeling/Management) の動向と取り組み事例等について	一般社団法人建設コンサルタント協会 東北支部
第4回 (2019.10)	i-Construction の動向と取り組み事例について	一般社団法人日本建設業連合会
第5回 (2019.12)	河川管理施設の維持・点検等における留意点について	一般社団法人東北地域づくり協会
第6回 (2020.2)	プレストレスト・コンクリート構造物の特徴と技術上の留意点について	一般社団法人プレストレスト・コンクリート建設業協会 東北支部

開催の様子



東北建設業協会連合会 会長 千葉 嘉春 氏

東北大大学院工学研究科インフラ・マネジメント研究センター
センター長 久田 真 氏

東北大大学院工学研究科インフラ・マネジメント研究センター
学術研究員 橋田 明良 氏

東北大大学院工学研究科インフラ・マネジメント研究センター
学術研究員 石川 弘子 氏

お問合せ先

東北建設業協会連合会

TEL : 022-268-4293 E-mail : t.rengoukai@codan.ocn.ne.jp HP : <http://www.miakencenter.or.jp/rengoukai/>

EARTH on EDGE

“ Entrepreneurial Action Renaissance in Tohoku and Hokkaido ”

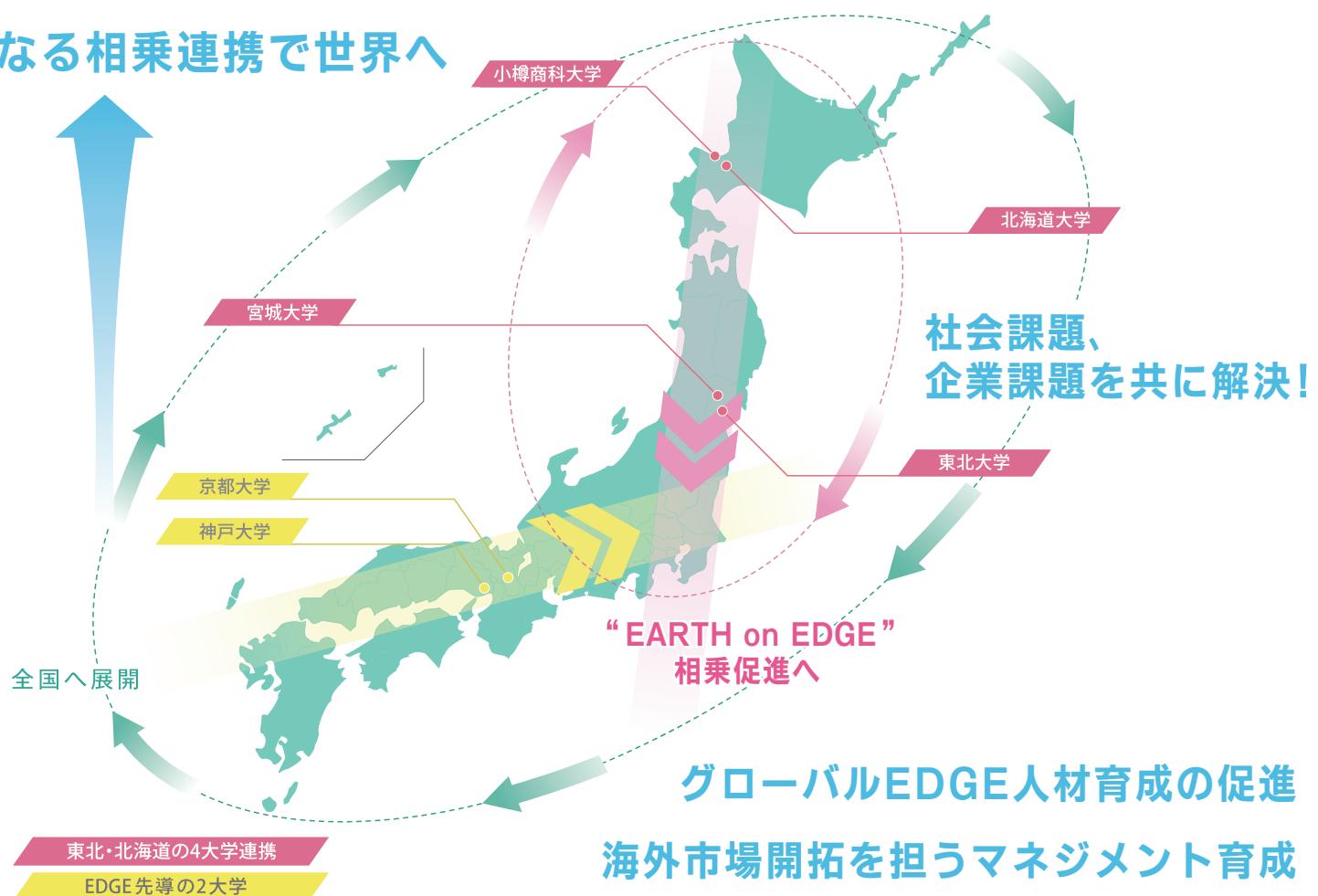
on “ Enhancing Development of Global Entrepreneur ” program

主幹機関：東北大学

東北・北海道からの起業復興

—東北大学、北海道大学、小樽商科大学、宮城大学、京都大学、神戸大学—

更なる相乗連携で世界へ



学部生、大学院、社会人、教育対象のグローバル多様教育プログラム

大学等の企業部

アドバイザー陣
VC、著名起業家 等

メンター会
ビジネスコミュニティ

起業家団体
スタートアップ支援機関

ファンドアクセラレータ、
VC 等

大学発ベンチャー創出

協力機関：欧米& 欧米以外の海外機関、企業等、その他の参加機関(大学等、海外機関、民間団体、公共団体等)

お問い合わせ先

東北大学 大学院工学研究科 EDGE-NEXT事務局 (担当：加藤 肇・田中 陽平)

TEL : 022-795-5657 E-mail : takeshi.kato.b4@tohoku.ac.jp(加藤) / yohei.tanaka.c4@tohoku.ac.jp(田中)

HP : <http://edge-next.eng.tohoku.ac.jp/>





EARTH on EDGE

“ Entrepreneurial Action Renaissance in Tohoku and Hokkaido ”

on “ Enhancing Development of Global Entrepreneur ” program

主幹機関:東北大大学

海外教育プログラム

「国際的な環境でビジネスのアイディアを共に研ぎ澄まそう！」

御社の課題解決

アート
× デザイン思考



海外市場開拓を担うマネジメント育成



地域の課題解決

北欧
× シリコンバレー

お問合せ先

東北大大学 大学院工学研究科 EDGE-NEXT事務局 (担当: 加藤 毅・田中 陽平)

TEL : 022-795-5657 E-mail : takeshi.kato.b4@tohoku.ac.jp(加藤) / yohei.tanaka.c4@tohoku.ac.jp(田中)

HP : <http://edge-next.eng.tohoku.ac.jp/>





復興プロセスを振り返って考える 未来のレジリエンス

—神戸・東北・北海道を巡る—

開催概要

日程	2019年9月～11月 ※原則、全日程参加をお願いいたします 神戸会：09月14日～16日 東北会：10月12日～14日 北海道会：11月02日～04日
募集人数	15名程度 (学部生以上)
受講料	学生：無料 一般：各会10万円 (旅費・宿泊費等は自己負担)
申込	ウェブサイトのエントリーフォームから申込み (事前課題あり)
内容	・現地視察、ヒアリング、講義による知識習得、調査・検証 ・グループワーク、アイディアのブラッシュアップ ・プレゼンテーション 等



目標

- レジリエント社会の構築を牽引する起業家精神育成プログラムを構築します。
- 3年間でレジリエンス人材100名を創出します。

方法

- 神戸・東北における復興プロセスを検証し、北海道で復興のあるべき姿を考えます。
- 今後発生するであろう我が国の災害に対して、新しい復興プロセスの在り方と未来のレジリエンスについて考える機会とします。

求む！本プログラムへのご支援！

- 経費支援 (受講者旅費、講師招聘費、メディア制作費 等)
- 若手スタッフ派遣



レジリエンス人材
100名創出！

メリット

- 若手社員の人材教育
- 新事業提案を通じて、地域の課題解決に貢献
- 優秀な理工系学生へのアクセス

お問い合わせ先

EARTH on EDGE (東北大学大学院工学研究科EDGE-NEXT事務局)

TEL : 022-795-5658 E-mail : edge-resilience@grp.tohoku.ac.jp HP : <http://edge-next.eng.tohoku.ac.jp/>

